

輝石

～追～

洗足学園高等学校 高校2年 学年通信 2020.04.20 発行
(活動メモより特別号)

オンライン授業の2週目に入りました。概ね順調におこなわれていますが、やはり会って話したい、一緒に学校生活を過ごしていきたいという気持ちは募ります。そんな中、学年団教員は、生徒皆さんの毎日の活動メモを読むのを楽しみにしています。先週の活動メモから、一部を紹介いたします。

4月13日(月) 『個でありつつ共にある』とは 先生からの問い

高2D H.H

私は、「個でありつつ共に在る」というのは、ひとりひとりがそれぞれ異なる事情を持ち、様々な気持ちを抱いている中で、相手に合わせて共感しようとしたり、逆に相手の意見を否定して自分の意見だけを通すのではなく、自分の意見も相手の意見も認めてあげることだと考えた。それぞれに置かれている状況が違うのだから当然考えていることも違うのだということ、自分と他者が異なる存在であることを理解したうえで、そういう存在がいてもいいと認め、受け入れることが大切なのではないだろうか。

たとえば、今星野源さんの「うちで踊ろう」というハッシュタグが話題になっている。これは、星野源さんが曲を演奏し、歌っている動画に対して、他の人が踊ったり、コーラスを入れたり、楽器を演奏したりしてコラボし、#うちで踊ろう をつけて発信するというものだ。参加している人には、有名人もいれば、学校の吹奏楽部などの団体、また日本人に限らずさまざまな国の人など、本当に多種多様な人・団体がいる。先日安倍首相がこれに参加したことで話題になった。

また、あえて「おうちで踊ろう」ではなく「うちで踊ろう」というタイトルにしたのは、働くために外出しなければならない人でも、心の中で踊ったり、参加できるようにとの配慮だそうで、英訳した曲名もDancing"at home"ではなく"on the inside"となっているそうだ。

これこそが「個でありつつ共にある」ではないかと感じた。仕事に行かなければならない人たちを批判したり、共感したりしているわけではなくて、そういう人たちでも一緒に歌ったり踊ったりできると発信している。それだけではなく、日本よりも感染が拡大しているアメリカやヨーロッパを含め、置かれている状況のまったく異なるいくつかの国々の人も参加しているのを見て、これこそが「個でありつつ共に在る」ということだと感じた。

高 2F A.Y

まず私が社説の「相手との同化」≠「個でありつつ共に在る」ということを読んで思ったことは、シンパシーとエンパシーの違いだ。シンパシーは「仲間意識を持っていること。同情、共感」、エンパシーは「共感力、相手の立場に立つ」。前者は相手の感情を読み取り、それによって自分自身の感情が動かされることなので、自分で努力しなくても自然にできる。シンパシーというのは他人に悲しいことがあったときそのことを自身の似たような経験に置き換えて悲しみを感じるからだから、それはその人の悲しみを本当に理解したことにはならないのではないかと思う。一方、後者は誰かに自分を重ね合わせ、相手のシチュエーションを理解することなので自分とは異なる立場の人を理解することができると思う。

今の日本人に多いのはシンパシーのほうだと思う。SNS で簡単に他人とつながれるが、そのつながりは自分と似通った考え、趣味の人だけとのつながりということがほとんどだろう。そこでは簡単に自分の考えに共感してもらえはするが、本当に話を聞き自分のことを理解してくれる人はいないと思う。

「個でありつつ共にある」ということは、同情や共感をもって「理解したふり」をすることよりも共感できなくてもまず自分が相手の立場に立ってものごとを考えてみるということが大事なのではないか。高 1 の HR 研修で行った対話では人の考えをまず聞き、それから違う考えを言い、人が言ったことをさらに考えた。このように、まず自分とは違う考えというのを認識し、それについて考えてみるということが大切だと思う。また、今の社会は「多様性」が重視される世の中だが、「多様性」を何も考えずにそのまま受け入れている社会は、本当の意味で多様性をもつのではなくそれについて考えないようにしているだけではないかと思う。本当に多様性がある社会になるためにはたとえ自分から想像しにくい立場、考えでもまずはその立場に立ってみようとするのが大切だと思う。

4 月 14 日 (火) 『言葉における正しさ』とは

K 先生からの問い

高 2A Y.A

鳥肌が立つという言葉は本来では寒さや恐怖で鳥肌が現れることを言います。しかし、今では感動した！というときに鳥肌立った～！！ということも多くあるなと感じました。このようにもともと否定的な意味合いのものが肯定的なものへと変化している事例は多くあります。ヤバいは現代語すぎるかもしれませんがそれでも意味は否定的から肯定的に変化しています。では、言葉の正しさとは何なのか。私はもともとその言葉があったからその言葉の使い方が正しいとは言いきれないと思います。だからといって新しくできた言葉はなんとなくの成り行きで使われ始めた様な気がするので、どちらが正しいのかは分かりません。でも、どちらの言葉を使うにせよ意味をしっかり理解していて相手に伝えられるのであればそれは「正しい」言葉になるのではないのかと思います。言葉を判断して使うことが最も重要なことだと思いました。

高2E N.A

世の中には、「全然」と同じように、世の中で認識されている「正しさ」と、文法のルールや研究者が歴史を研究してわかる「正しさ」が一致していない場合がよくある。例えば、私は普段「微妙」という言葉を「悪くもなく良くもない」「(若干否定的なニュアンスで)なんともいえない」という意味で使うことが多い。しかし、調べてみると「なんともいえない味わいや美しさがあり、趣深いこと」というのが第一の意味だった。はじめは、後者の意味が辞書にのっているのだから正しいのは後者なのだろうと思った。しかし、もし友達の美術の作品に対して意見を求められた時、「微妙だった」と答えたらどうなるだろうか。本人は褒めたつもりでも、周りの人は「悪くもなく良くもない」という意味や否定的な意味で受け取ってしまうことが多いだろう。私は、「言葉」は人に心情や状況などの様々なことを人に伝えるために使うものだと思う。いくら正しい意味を使っても、相手に伝わらなければ意味がないと思う。人に伝えるために、辞書に載っている「正しい」意味を使うべき時も、多くの人が「正しい」と思っている意味を使うことも重要だと思う。

もう一つ例を挙げると、文化祭で模造紙の原稿をチェックするとき「小学生にもわかるように修正してください」と言われたことがある。その時、難しい言葉を「厳密には少し意味が違うけど、小学生に伝わる簡単な言葉」に置き換えた。このように、文章を読む相手が大人の場合と小学生の場合とでは、適切な言葉の使い方が変わると思う。言語における「正しさ」とは、相手や状況、時代によって変化し、人それぞれ違うものだと思う。

4月15日(水) 『情報と知識の違い』とは 『知識』とは H先生からの問い

高2B T.M

知識は自分が経験などから主体的に得たもので、情報はニュースや噂など受け身で得たもの。

私の場合、知識は授業などより人間関係から得ているものが多い。

- その人のことを尊敬し認めたくて勝ちたいと思うのが「負けず嫌い」で、羨ましさだけ超えたいと思うのはただの「妬み」
- 本当に努力をしている人は自分が努力していることに気付いてない。
- 話し上手は聞き上手(よく聞くけど本当にそう)
- 自分が承認されたいなら、自分も相手を承認すべし。承認は食物連鎖と同じ、巡り巡っていつか自分に帰ってくる。
- 自分の素を活かす。ネガティブならネガティブを利用する。ポジティブのふりが一番ダメ、中途半端。

Information is not
knowledge



高2C K.Y

私は知識と情報の違いはまず客観的か主観的かに依拠すると思う。情報は世の中に溢れていて、それを目にしたり聞いたりした人すべてが同じ内容に捉えるものである。一方、知識は自分の経験を通してその情報を自分なりに咀嚼したものであると考える。以前現代文の時間に『言葉と経験』という文章を読んだ。特に印象的だったのは、言葉は「こと」を喚起する力をもっている、という内容だ。同じ経験をした人たちの間ではそれ以外の人たちに比べてより深い理解ができる。その文章で例に挙げられていたのは「ローテローズの赤」と言うと、ローテローゼを知っている人たちはただの赤色ではなく、独特の美しい陰影を伴った赤色を想起するという内容だった。このように、情報を自分の経験と関連づけて理解し自分特有のものにしたものを知識というのではないだろうか。

私には年の離れたいとこがいて世話を頼まれたことがあり、二人きりのときにいとこが泣きだしてしまった。私は以前、赤ちゃんに鏡を見せると興味津々になり泣き止むと聞いたことがあったため、いとこを抱いて鏡の前まで行き試してみたが、泣き止む様子はなかった。その後私は自分であれこれ試し、花が置いてあったので「このお花はなんていう花？」と聞いてみるとやっと泣き止んでくれた。私の祖母の家は生花店なので、なるほど、と思ったことを覚えている。この方法こそ、ネットで検索しても本を読んでも見つけることはできない、私のいとこのあやし方の知識ではないかと思う。

4月16日(木) 『孤独』とは

K先生からの問い

高2E M.A

「私は死ぬ前にたった一人で好いから、他を信用して死にたいと思っている。あなたはそのたったひとりになれるか。なってくれますか。」これは、夏目漱石の「こころ」の一節である。欺かれてきたからこそ人を疑ってしまう。信じたくても信じることができない、そんな苦しみのなかで生きた先生の言葉である。先生は、最も愛する妻にも心のなかを打ち明けることができなかった。そうして、最後に先生は死を選んだ。人は、人に信じてもらえないことよりも自分を信じることができないほうがずっと寂しさを感じると思う。孤独とはそんな寂しさを言うのではないだろうか。先生はその寂しさ、孤独に耐えることができなかったのかもしれない。誰かを信じること、ましてや自分という人間でさえも信じられなくなったとき、孤独を感じると思う。

100年ほど前に書かれた小説の中の孤独と現代の私達が感じてしまう孤独には共通点があると思う。2020年3月にリリースされたlauvの新曲の「Modern Loliness」という曲は、友達といつもつながっているのにどこか孤独を感じてしまう現代人の心を歌っている。インターネットが急速に発展し、いつでもどこでもすぐに連絡を取り合うことが可能になった。だからこそあえて顔を見合わせて話すことがなくなった。決してひとりではなくても家族がいても友達がいてもどこか孤独を感じてしまう。そんな時代の今を象徴した曲だと思う。たくさんの情報や人とずっとつながって

いる感覚に慣れてしまっている。そんななか満たされない、孤独感を誰しもが感じると思う。私が思う孤独は決してひとりであることを言うのではなく、たくさんの情報に埋もれ自分を見失ってしまうことだと思う。自分が何者なのかがわからなくなってしまう。だからこそつながっているものがあるのに孤独を感じる。夏目漱石の「こころ」と現代人の抱く孤独には精通するものがあると思う。自分の存在を見失って信じられなくなってしまう。そんなとき人は孤独を感じる、と私は考える。

高2B Y.Y

孤独とは、選ばれた証拠であり、責任を負っている証だと思います。私は、仕切る立場に立つと不意に自分自身は1人であることを自覚させられます。自分の決断が皆の意思を1つに絞って確定させるのだと思うと、自分1人で背負っている責任の重さに怖くなります。トラブルが起きたり、話し合いが難航したりして、壁にぶつかった時に自分がいくら思い悩んでいても誰も気にかけて助けてくれないこともあります。そんな時に感じる孤独感は壮絶です。孤独感から脱したいのであれば、仲間に助けを求めればいいのかもかもしれません。初めのうちは、仲間に寄り添ういいリーダーだと歓迎されるかもしれません。ですが、リーダーシップが欠如した仲良しグループでは荒廃する一方です。皆からの評価が理想のリーダーから無能なリーダーへと変わっていくのに、大した時間はかかりません。

人は孤独を乗り越えるからこそ、強くなるのだと思います。孤独とは人を率いるうえで必然的に生じるものであり、私は孤独であることは決して寂しいことではなくて、誇らしいことだと思います。だから、私は孤独であることを恐れずに孤独であることを楽しみたいです。孤独なリーダーが中心となるからこそ、良いチームワークが構築されるのではないかと思います。

4月17日(金) 『自律』とは

S先生からの問い

高2A H.M

私は自律をきちんと意識したのは今のコロナウイルスによる休校期間からだと思います。3月は特に、課題という形でタスクが与えられていましたが、与えられたことをただこなしていただくだけで自律していることとは違うと思います。自律は、勉強で例えると受験勉強のようなものだと思います。受験勉強は、やるかやらないかは自分次第でそれによって影響を受けるのも自分です。自らを律して、自分でやるべきことを見つけ計画を立て助けが必要と感じたときは自分から助けを求める。全て自分の責任下で何かを成し遂げられることが自律していることだと思います。私は自律するために、この休校期間にまず自分を知らずとも思い勉強だけではなく普段時間をとれないことにも挑戦して自分の関心の幅を広げてみようと思いました。

キセキノートの作成をしている時にも自律という言葉が頭に浮かびました。キセキノートに今書き込んだことはあくまで計画ですが、自分のこの先二年の人生計画がそのまま実現するためにはそれこそ自律した生活が必要になると感じました。自分に言い訳せず、目標と向き合うことを大事にしようと思います。

高2D N.Y

私の人生の中で、「自律」の必要性を感じた経験は、中学入試のときや定期考査に向けて勉強するときの勉強法である。中学入試のときは、塾で、クラス全員共通のテキストが配られ、基本同じような内容を勉強していくが、自分の苦手科目を、他の人より多い量をこなすなど、自分で工夫して勉強していくことが大切だと気づかされた。定期考査に向けて勉強するときも、受ける科目は同じで、基本同じ内容を学んでいるが、暗記する部分があった場合、別のノートにまとめ直す人もいれば、赤シートを使って後々勉強できるように授業のノートに手を加えていく人もいる。これと同じように、人によって案外勉強法に違いが出るもの。このときも、自分に合った勉強法を探し出して、自力で勉強していくことが大切だと思った。「自律」を意識したことから、誰がなんと言おうと、他人に振り回されることなく自分の意見をしっかりと持とうと思えたと、他人の意見に左右されて自分を見失ってしまうことも少なくなった。どんなに辛く、悲しいことがあっても、“自分を持つ”ということの大切さを学んだ。

4月18日(土) 『学び』とは

A先生からの問い

高2B H.R

学びとは学校の授業の科目だけでなく、新しい環境に適應する能力を身につける過程のこととも言うと思う。今のパソコンを通してビデオ通話をするとき、最初はどのように操作するかわからなくても、次第に理解しこの方法にも適應することができるのは、日々やり方を調べたり、友達に聞いたりして学んでいるからである。学びは何かをする過程であると考えた。勉強だけに限定せずもっと広くつかえる言葉である。これからたくさん学ぶ活動を通して、いろいろなことに柔軟に対応できる力を身につけたい。

高2F H.M

「学び」とは、自分の知らないことを認識してそれを埋めることだ。ネットを介した授業を一週間受けて、「学び」は場所を限定せずどこでもできるのかもしれないと思った。

ただ、学校でクラスメイトと一緒に授業を受けるのと自分の勉強部屋でパソコンを前に課題を進めるのでは緊張感が違う。前者では環境が整っているため自然と「学ぶ姿勢」に切り替えられるが、後者では自分でどうにかしなければならない。

机に向かって「学ぶ姿勢」を維持するのは難しい。教科書とにらめっこしながら何かを学び取ろうと気を張っていると疲れてしまう。毎日学びを生み出すために同じことをしろと言われても飽きるのが人間だ。

こういうときに、家族をはじめとした会話できる相手がいるのは心強い。人とのコミュニケーションは休憩にもインプットにもアウトプットにもなる。